



THE ROTARY CLUB OF NAGANO WEST

長野西ロータリークラブ

例会 毎週金曜日 12:30~13:30 ホテル国際 2 1
 事務局 〒380-0838 長野市県町576 ☎026(235)2800 FAX 026(235)0016
 e-mail:nwrc@sweet.ocn.ne.jp

会長/池田 修平 幹事/中野 欣哉 クラブ会報委員長/青木 宏
 SAA/小山浩太郎 副 SAA/若麻績信昭



第1318回例会 2014年（平成26年）11月21日（金）

ロータリーに輝きを LIGHT UP ROTARY

会長挨拶 池田修平会長

今日は11月21日です。明日は11月22日で昔の暦では10月1日です。11月は霜月といまして、昔の月の呼び方では和風の名前が付けられています。10月は神無月といまして日本全国の神様たちが出雲に集まる月になっているようです。したがって、日本中神様がいない月になっています。ただ、出雲地方では神様が集合するので神在月と言っています。季節感は昔の暦に近い感じで考えたほうが季節に合っているようです。

幹事報告 中野欣哉幹事

ただ今、ご挨拶を頂きましたが、会長と共に、お齋に参列してまいりました。とても大きなお別れの会でした、印象的だったのは、山口先生の、にこやかなご遺影でした。また柄澤先生が、弔辞を読み上げられたお姿には涙を誘われました。

会員一同、ご冥福をお祈りいたします。

- ・11月16日開催 IM、会員セミナー報告。次年度は、伊東義次さんがガバナー補佐とされます。無断欠席と無断出席合わせて12名の出席です。
- * 第5回クラブ協議会報告。
- ・12月5日は年次総会。
- ・12月12日は犀北館にて18:30~年末家族会。
- ・高橋英司さん、伊東義次さん、米山特別寄付をされました。ありがとうございます。
- ・今年も例年にならない年賀状を欠礼致します。

山口文男さん、ご子息山口亨様 ご挨拶



皆様にはお忙しい所、ご会葬いただきまして有難うございました。西クラブの皆様には、公私にわたりお世話になりました。体調を崩してから、父はクラブの例会に出席することが楽しみであり、体調が悪い日でも行った後は爽やかな顔で帰り、声をかけてもらったことを楽しそうに話していたのが思い出されます。死因は肝臓癌で、2年前頃から肝硬変が悪化し入退院を繰り返していました。ここ1ヵ月は介護用ベットにて過ごしていましたが、身の回りのことは自分で出来ましたので、家族もしばらくこの状態でいくと思っていた所、10月14日に急変し、16日に亡くなりました。最後は、幸いなことに家族に囲まれ、息を引き取る瞬間は、にこっと笑って旅立っていきました。この笑顔が、父にとっての最後の言葉だったのだと思います。生前、父が、皆さまから賜りましたご厚情に感謝致します。ありがとうございました。

11/28 本日のプログラム

ゲスト卓話 柴田匡平さん

ゲスト 吉澤政己さん (工学博士)

- ・竹村利之さん☆吉澤先生、真田家初代当主の御霊屋のお話を皆様によりわかりやすくご説明よろしくをお願いします。
- ・山口和彦さん☆松代学が、今期最後のセミナーだそうですが、もっと松代の事を学びたいと思います。
- ・伊東義次さん☆長い間休ませて頂きました。おかげさまで回復に向かっています。今年度の事業と次年度に向かっています。大橋先生どうもありがとうございました。☆森林 (もり) の事業にも参加できず残念でした。大成功と聞いています。次年度は是非協力したいと思います。
- ・野村泰久さん☆森林 (もり) の整備事業は素晴らしい。

・合計 91,000円 ・累計 389,946円

講師紹介

竹村利之さん

吉澤政己先生は、長野県文化財の研究者の第一人者であられ、多方面に活躍されています。最近では、新聞等によく記事が載っています。今回で二回目の卓話になりますが、昨年は、NPO 法人信州伝統的建造物保存技術研究会副理事長として「長野県の文化財と松代藩」ということでお話いただきました。本日は、初代御霊屋と林正寺の本堂 (長国寺から移築した真田信政の霊屋) についてお話いただけるとは思いますが、文化財の建物について皆様と共に勉強したいと思います。



例会案内

12月5日 ゲスト卓話 陳平米山奨学生

ゲスト卓話 吉澤政己さん

「松代藩及び周辺の建築 (真田信之の霊屋と林正寺本堂)」



今回は、松代町清野にある林正寺の本堂と表門について、前回解説した長国寺にある真田信之の霊屋との関連や技法の類似性・相違について述べる。

林正寺は、清野集落の西端のやや小高い場所にある浄土宗寺院で、寺伝によれば天文19年 (1550) に開かれたのが始まりといわれ、松代藩主真田家とも関係の深い寺であった。

現在の本堂および表門は、昭和27年に長国寺内にあった二代藩主真田信政 (1596~1658) の霊屋を移築したものである。万治元年 (1658) の春に二代信政が没し、同年の秋には初代信之が没したので、二人の霊屋は同時並行で建設され、万治3年 (1660) に完成した。信政の霊屋は信之の霊屋の左側に少し離れて建てられ、最終的にはこの2つの霊屋の間に三代幸道の霊屋が建てられた (幸道霊屋は、現在は長国寺本堂の背後に位牌堂として移築されている)。

初代・二代の霊屋の規模や構造形式は同一で、間口三間、奥行四間、入母屋造りで、正面に向拝をつける。向拝正面に軒唐破風、その奥に千鳥破風をつける。信之の霊屋は、全体が黒漆塗り、金箔押しの金具で飾られ、極彩色の彫刻を施している。信政の霊屋 (林正寺本堂) も、黒漆塗り、金箔押しの金具で飾られ、極彩色の彫刻をつけていたが、現在はごく一部に残るのみ。大きく異なるのは、飾り金具の代わりに木製の彫刻を付けている点である。ここには、二代が初代より華美にならないようにという意識がうかがわれる。

霊屋の内部は、ともに豪華で、柱は漆塗り・金箔押しで上部に金欄巻を描き、頭貫・台輪・組物等にも文様彩色を施す。信政の霊屋の天井は、外陣は格天井の各格間に花鳥を極彩色で描き、内陣は鏡天井に天女の絵を描き、内陣・外陣境の欄間は天女の彫刻とする。

霊屋の表門は、初代・二代とも全体を黒漆塗りとするが、二代の表門 (林正寺) は本墓股の内部に松に鷹の極彩色の彫刻を入れており、門では初代より二代の方が華美である。

なお、林正寺は清野出身で日本初の新劇女優松井須磨子ゆかりの寺院で、境内には「松井須磨子演劇碑」が建立されている。